

「区における行政への参加の考え方（案）」 ～区民会議のリニューアルに向けて～ の 市民説明会報告

1 開催状況

- (1) 日 時 令和3年3月 13 日(土) 10:00～10:55
- (2) 会 場 総合自治会館ホール
- (3) 参加者 7名

2 実施概要

1. 開会の挨拶
阿部市民文化局コミュニティ推進部長から挨拶。
2. 「区における行政への参加の考え方（案）」の説明
配布資料に沿って、説明。
3. 質疑応答
質問・発言を希望の方に、挙手及びご発言していただき、意見交換。
4. 閉会の挨拶
井川市民文化局区政推進課長から挨拶。

3 質疑応答の内容（要旨）

- (1) 試行期間が2年間ということであるが、少し長いのではないか。1年くらいで良い気がするかどうか。
(市民文化局区政推進課)

試行期間の2年間で、色々な形式に取り組んでいきたいと考えている。テーマによってもそうだし、例えばワークショップ形式でやってみるとか、講演会形式でやってみるなど、それも区ごとに展開をしていく。

行政の1年間のスケジュールで考えると、やってみて、検証して、次の予算要求につなげていくとなると、丸々1年間やれるわけではなくて、半年くらいは制度構築に向けた取組も必要なので、2年間やるというよりも、緩やかに時間を設けながら、その先も含めて試行錯誤しながら、新しい形を見つきたいと考えている。

試行期間ということでテスト期間なので、いただいた意見が反映されないとかそういうことではなくて、

色々な形式にチャレンジする期間と捉えていただきたい。

(2) 「新しい参加の場」というのが、理解しがたいが、非常にオープンで、自由参加で、柔軟でということで、一見良さそうに聞こえるが、これではまとまりが見つからない気がする。

色々な人が意見を述べて、意見交換するのは良いが、そこで何らかの合意というか、結論を持たずに単に意見交換をして、ただ意見を吸い上げるのであれば、わざわざ「新しい参加の場」を作らなくても、普段からパブリックコメントなど色々な形で行政が市民の声を聞く機会があるので、何らかの形で、「新しい参加の場」は、ある程度固定メンバーで、区民会議の場合は2年間であったが、それでも足りなかったのが実感である。そういう形で議論を深めていかないと、毎回違ったメンバーが出てきて、前回の議論を踏まえて今日はやる、あるいは、その日の議論を踏まえなくて次回やるとなると、何もまとまらないと思う。

(市民文化局区政推進課)

これまでの区民会議の改善点ということで、今回は考えているところではあるが、これまでの区民会議の枠組みで、期間を延ばしていけば、一定解決できそうであるという案件のご意見かと思う。我々もそういったことは考えてきたが、それ以上により多くの方に関わっていただくというのも、テーマとして考えており、それを両立させようとする、なかなか難しいところがある。

一定のメンバーの方々が、1回きりで集まって、それで解散ということではなく、ワークショップも複数回のシリーズがあると思うが、そういった形で複数回やることも考えられる。検討するテーマによって、より良い形というのを探っていきたいと考えている。

(3) 「ソーシャルデザインセンター」や「まちのひろば」も必ず入ってくるのか。

(市民文化局区政推進課)

「ソーシャルデザインセンター」や「まちのひろば」を作っていく取組とは別に考えているが、今、コミュニティ施策の推進ということで、川崎市で進めている中では、「ソーシャルデザインセンター」や「まちのひろば」を新しく創出しながら、コミュニティづくりを進めていく取組をしているので、それと「新しい参加の場」は、連携して取組を進めていく。

そのため、「新しい参加の場」の中で、「ソーシャルデザインセンター」を作っていくとか、「まちのひろば」を創出するということではなくて、地域づくりの取組の一環として、連携をしながら取組を進めていきたいと考えている。

(4) この前の説明の時に、「ソーシャルデザインセンター」を新たに作ると言っていたが、その後に色々聞くところによると、「ソーシャルデザインセンター」を役所の人の天下り先のために作る聞いたが、そういうことであつたら、やめてほしい。

(市民文化局協働・連携推進課)

「ソーシャルデザインセンター」の考えられる機能ということで打ち出しをしているが、実際の運営ややり方など、そうしたものについては、各区それぞれのやり方でやっていくというのが、最低限決まっているところで、実際の運用はこれからになる。

ご指摘のように行政職員の天下り先機関ではあつてはならないと思うので、そうではないと考えて

いる。

「ソーシャルデザインセンター」が2区でスタートしているが、区民の皆さんに良いしくみだと感じ取ってもらえるように、丁寧に対話しながら取組を進めていきたいので、ご協力をお願いしたい。

(5) 川崎市は今年度赤字だと思うが、それも踏まえて、本編P13の「区民会議意見交換会」というところに、「ソーシャルデザインセンター」とかに関わってきた人たちが入ってきた記憶がある。その時に、何をこんなことをするのかという感覚を持った。不必要な人が入ってきたような気がした。まとめていくのに誰かの力を借りなければいけないのか。あの席では悲しい気持ちになった。また、その人たちの主導になってしまった。主導がどちらなのか。

その人たちによって、「ソーシャルデザインセンター」とか色々な外郭の人を入れて、その線に沿っていってしまう可能性がとても高い。そうすると、市民の意見ではなくなってしまって、市政に良いような意見に持っていきような感じがしている。何のための区民会議か、そういうことを感じた。

(市民文化局区政推進課)

区民会議の目的としては、市民の皆さんのご意見をいただきながら、行政を進めていく、または、まちづくりを進めていくということなので、行政の進めたいように市民の意見を取りまとめるということでは決していない。

ご指摘いただいた本編 P13 の意見交換会のことかと思うが、この時は、皆様の意見交換をさせていただくのを、ワークショップ形式で進めた。ワークショップ形式で進めていくのに、行政の方から委託をして、コンサルタントにファシリテートしてもらった。ワークショップなので、一定の手順に沿って、テーマをやって、皆様からご意見をいただくという段取りを決めていくので、自分の思ったように意見が言いにくいという方がいる一方で、なかなか普段は発言しにくい方からもご意見を引き出すというのが、ファシリテーターの役目かと思う。

我々職員もそうであるが、上手に引き出せる人と引き出せない人とスキルの問題もあるが、行政職員もできれば皆様と直接話をする時に、上手くコーディネートできるような職員を育成していく取組を進めている。そうやって職員が直接やらせていただく場合と、場合によっては、コンサルタントを入れて、専門の力を借りるということは、その場に応じて、選択をしながら進めていきたいと思う。

そもそも、ご指摘をいただいたような誤解が生じないようにしっかりと留意していきたい。

(6) 前回の説明会の時にも、「ソーシャルデザインセンター」が中心となってやっていくような話だったので、皆さんが反発して、不思議だという風に言っていたと思う。

それがいきなり、この中から外されていて、根本的には、テーマも何もかも行政が決めるのであれば、市民の本当の考えで、これが必要だということをやることではなくて、行政が何となく皆に考えてほしい、良いアイデアが欲しいというのを出して行って、軸も何もない。

これをバラバラでこっちではこれをやって、あっちではあれやると、何にも軸がなく、その時にその興味のある人が集まって、ちょっと意見を言って、それを年に3回とか4回とか、行政の決めるサイクルがあると思う。

それをやって、それで終わってしまって、その後実現するというのは、行政と市民のどこが一緒になって、それを実現していくのか。何も見えてこない。母体もなければ、軸もない。

その発想そのものも最初から行政でやって、それを区長に報告する義務もないとすると、何のための区民会議なのか。根本から発想を変えないと、行政は本当に市民が必要としていることとや、これをやりたいとか、これが問題だというのを、どこで把握しているという自信を持って、テーマは行政が決めると言っているのかというのが、疑問だし、実現のプロセスがこれでは全く見えない。

四角に座ろうが、丸く座ろうが、そんなの関係ない。そういうものをラウンドにしたからといって、新しくなるわけではない。色々な方々を参加させるというのは、賛成であるが、これだと只のアイデア出しで終わってしまって、実現には程遠いと思う。

スケジュールを見ると、令和3年度が第1回目の試行ということで、今年と来年みたいなイメージか。そうだとすると、すごく早く始めるんだと思った。その割には、この時点でこういう感じで案内をされて、去年の末には、「ソーシャルデザインセンター」が中心といていたのに、いきなりそれが抜かされて、質問が出ると、それは別にちゃんとやりますみたいなことを言って、それは市民にとって、何なのか。不思議な感じがした。

(市民文化局区政推進課)

「ソーシャルデザインセンター」の位置付けについては、前回の検討の方向性をお示しさせていただいた時から、特に変わってはいない。「新しい参加の場」と連携をしながら、取組を進めていくということについては、スライドに色濃く説明していたかどうかということはあるが、基本は一緒である。

今回お話をさせていただいているのは、参加の場をどう作り上げるかということをやっているので、「新しい参加の場」と「ソーシャルデザインセンター」の取組は連携していくということについては、変わっていない。

テーマ設定については、我々も苦慮しているところであって、これまでの区民会議で良かった点としては、皆様から平場のところで、議論していただいた。それが一方で、2年間という枠組みが決められている中で、下手をすると1年間をかけて、何を検討するかというところを喧々諤々進めてきた。その喧々諤々進めてきたのだけど、場合によっては、自分のご意見が採用されなかった方してみると、何だという形になってしまって、残りの後半の1年間の出席率が少し悪くなったりというようなことがあった。

そのため、今回は、そういったところを少しでも改善できればということで、テーマに則して参加していただくことも考えながら、試行してみたいというところで決めさせてもらっている。

行政だけで地域の課題が全て把握できるわけではないので、日頃から区民の方々や市民の方々と意見交換をしながら、取組を進めている部分もある。例えば、地域包括ケアシステムの取組や、それ以外にも活動させていただいていると思うので、そういったところから抽出していきたいと思うし、またアンケートなども活用していきたい。

1つの手法ではあるが、日頃から活動してもらっている人に集まってもらい、何を次の会では議論しようかという議論をするための議論の場というの、場合によっては、必要かもしれないという意見が庁内でも出ているので、我々も試行錯誤しながら、進めていきたい。

実現のためのプロセスについて、ここも難しいところであって、1回の意見交換でそこまで詰められるのか。先ほどの意見でもあったが、固定のメンバーで続けていかないと、そこまで深まらないのではないかとこのところがある。我々も実現に向けて、ちゃんと進めていくというのは、大変重要なことであるので、どうやっていったら良いかというのは、参加していただいた皆さんと意見交換をしながら、実現

に向けてやっていくくみにしたいので、これはお約束したい。

そういう意味では、今年度と来年度でという発言もあったが、一方で、2年間は長いのではないかと
いう発言と、やや駆け足なのではないかという意見があるが、これで何か決めきってしまったて、ご意見
を排除するというのではないので、行政としても柔軟に皆さんと一緒にまちづくりを進められるようにし
ていきたいと考えている。

(7) 年数ではなくて回数だと思う。年に3回とか4回とかでは、決まることも決まらない。もっと、密に話
をしないといけないと思う。

(8) せっかく区民会議という日本国の中でも皆が真似したくなるような良い制度というのをまず自覚し
てほしい。それをリニューアルするわけだから、私もメンバーとして参加させていただいたが、思ったこ
とは、「新しい参加の場」で、大事なことは、パワーポイント資料P10にあるように柔軟なしくみである
こと、より多くの人に参加できる方法、課題解決の取組につながることで、これ以上何も言えないこと
が書いてある。

今まで参加させてもらった経験からいうと、より多くの人に参加できる方策というのは、メンバー制
の問題をどう具体的にクリアしていくのか。テーマについては、行政が決めるのであれば、専門性を
伴うと思う。したがって、メンバーの一般市民の方も、専門性が要求されることは、必要ではないか。

課題解決の取組につながるというのは、1番大事なことで、言いつ放しで、終わってしまう。次見た
ら、議事録に載ってそれで満足する人もいるし、こんなものではないと、次世代に残そうと思って、自
分の意見を言ったのに、これが区民会議かということにならないようするために、その担保をしてほし
い。

これだけは「新しい参加の場」で、課題解決の取組にするために、これとこれはやる。課題解決す
るためには、言うことだけではダメである。

予算がいる、それに伴うノウハウ、参加する方には交通費の謝礼もないということで、この論点は、
少し交通整理しても良いのではないか。

気持ちはわかるが、一緒に川崎市の制度を後 100 年先まで作ろうかという気概が見えてこない。
そのためには、お金とそれに向かう人材や予算が見えて来ないから、特に経済的な面で担保する必
要がある。

(市民文化局区政推進課)

6期 12 年間に渡って区民会議をやってきたが、より多くの方に参加してほしいと書いてあるが、こ
れまでも様々な方に多く関わっていただきながら、貴重な時間を費やしていただき、意見交換を積み
重ねてきたというところについては、川崎市が誇る財産だと考えて良いと思う。その上に立っての取
組と自覚している。

より多くのところというところというところ、今まで2年間で 20 人というところであったが、そういう意味では、延
べ人数だけでなく、色んな方々、働いている方や町内会・自治会に関わっている方、環境問題に関
わっている方、保育に関わっている方など色々な種類の方々に、多様な形で関わっていただきたい
と思っているので、そういった仕掛けをしていきたいと思っている。

テーマについて、行政が決めるとしているが、必ずしも専門性が求められるテーマを選定するだけ

ではなくて、そういうものもあるかもしれないが、一方では区民会議の趣旨として、市民の方々の参加と協働で課題を解決していくということが大きなテーマとなる。

テーマ設定をする時には、このテーマは行政が一方向的に決めて進めていく社会的課題ではなくて、市民の方々と、どうやったら解決の手段まで協働でできるかを考えながら、選定していくことが大変重要であると考えている。

行政が答えを受け取って、事業として進めていく場合と、市民の皆さんと一緒にやっていく場合、場合によっては、市民活動団体の方に独自で取組を進めていただく場合と、参加していただく市民と行政側がそれぞれの責任において取組を進めていく必要があると考えている。

行政側としても、予算の部分については、議論していきたいと考えているが、区役所だけでなく、事業局も含めて、意見調整をしていけるしきみをしっかりと構築していきたい。

我々も参加してもらった方に謝礼金を支払うべきなのか、そうではないのか議論してきたが、予算の枠に縛られてしまうので、やりたいことをやれないというのが、これまでの経験であったので、今回については、一切支払わないということではなくて、原則支払いをしないという形で整理している。この点についても、行政の中で引続き検討していきたい。

(9) スケジュールを見ると、考え方の策定がされてから、「新しい参加の場」の試行はいつぐらいになるのか。

(市民文化局区政推進課)

試行は、令和3年度中にはと思っているが、今のところそれが何月ぐらいにできるかは、決まっていない。

(10) これを始める時に、また参加者を募るための説明会を開催するのか。

(市民文化局区政推進課)

区ごとに違ってくると思っていて、例えば川崎区であれば、川崎区の集め方、説明の仕方がある。ひっそりとやるわけではないので、テーマをお知らせして、募集するのがわかりやすいと思うが、その場合は、一定のお知らせをする期間が必要になるので、そういったことを含めて検討していきたい。

(11) 各区によって抱えている課題が違ってくると思う。テーマ設定やこの区では、どういう枠組みでやっていくのかということから、区ごとに違ってくるとなると、その段階から市民の中で、そこに加わってみたいという市民も交えて、枠組み作りからやっていただかないと、こういう枠組みでやることに決まったので、運営に参加してくれる人は来てくださいということを市民に求めるのではなくて、主体的に枠組みを作る段階から参加させてほしい。

(市民文化局区政推進課)

ありがたいご意見である。行政がテーマを決めるとなっているが、行政主導でやるのが大事だとは考えていないので、運営のところへの参加のあり方についても、引続き検討していきたい。今回、それにチャレンジするとか、次回は違ったやり方をするというのはできると思う。

(12) 令和3年度が来月から始まるが、来月からの試行実施なのに何も決まっていないという指摘があったと思う。

1番フラストレーションを感じたのが、本編のP30である。今後の検討課題として、5項目あって、重要な5つのポイントが書かれているが、これを全て検討するということでは、コメントのしようがない。何かそれぞれについて、たたき台で良いので、こんな方向はどうか、このやり方はどうかというのを示していただけると、意見をしやすい。これも全て検討ということで、一体この検討はいつ終了するのか。またそれをいつ発表していただけるのか。それができて来ないと令和3年度からの試行実施開始はとて追いつかないのではないかという気がしている。

本編のP24に実施形式でワークショップ、ラウンドミーティング、レクチャーフォームとあるが、宮前区には1つのケースがある。区役所と市民館・図書館の移転、鷺沼駅前再開発問題で、大体1年くらいかけて、相当な回数のミーティングを重ねたにも関わらず、何ら市民の合意もなく、行政に押しつけられて鷺沼駅前に区役所と市民館・図書館が移転することが決まってしまったという印象がある。単一テーマで、色々な形で10回やってもそんな感じなので、相当回数を重ねていかないと実践できないと思う。

(市民文化局区政推進課)

言い訳ではないが、年度は1年間あるので、前半の間は、しっかりと検討させていただきたい。

市民文化局だけではなくて、区役所の主体的な取組も大事だと思うので、今も主体的に取組んではいるが、これから先はより区役所の方とも一緒になって、課題の解決に向けて取組んでいきたい。

色々な局が区民の方と直接意見交換させていただくこともあると思うが、そういうことも含めて参加の場の1つではあると思うが、参加の場はこれだけではないので、法に定められているものもあれば、条例に定められているものもあるので、そういったものとは別に、区民の皆さんの参加と協働で何をやっていくかというところをテーマに選んでいくことが大事だと思っている。やり方を含めて、ガス抜きにならないようにしっかりとやっていきたい。